

野菜の需給・価格動向レポート(平成20年11月7日版)

参考資料

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	10月の価格動向				11月の見通し		
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿) (速報値)			主産地の概況	卸の見通し (上段:関東、東京青果株、下段:近畿:大果大阪青果株)	
		上旬	中旬	下旬			
キャベツ	74.19	74	64	58	・入荷見込量:13,180t(102) ・主産地:千葉(44)、愛知(20)、茨城(19)、東京(6)	関東の産地では、10月上旬から出荷最盛期となった。生育・作柄は平年並みの見込み。	今年定植時期の盆明け以降豪雨等天候不順で作業は遅れた。11月には回復基調にあって、作付けの増大から入荷は前年を上回り、価格は平年を下回る見込み。
	93.59	78	69	65	・入荷見込量:3,800t(106) ・主産地:愛知(48)、茨城(25)、兵庫(7)		冬型に作型切り替わるが、生育は概ね順調で作柄も良く入荷増加傾向の中、下押しから価格安を予想。
ねぎ	129.76	306	214	189	・入荷見込量:5,920t(105) ・主産地:埼玉(16)、青森(15)、新潟(11)、千葉(10)	関東の産地では、8月下旬からの大雨による影響で、軟腐病等が発生したが、気温の低下に伴い沈静化している。10月に引き続き、品質低下が懸念されるが、作付け増加にともない出荷量は前年並の見込み。	今年、昨年のような産地の豪雨による影響が無く、入荷は平年作で、価格は平年を下回る見込み。
	444.77	385	322	301	・入荷見込量:220t(102) ・主産地:香川(23)、大阪(22)、徳島(15)		—
はくさい	54.10	98	66	50	・入荷見込量:12,700t(100) ・主産地:茨城(91)	関東の産地では、育苗初期の高温及び後半の降雨・曇天の影響から、一部苗が不揃い。1週間~10日程度、定植に遅れがある。肥大・品質は順調であり、10月末には量がまとまる見込み。	今年生育順調で入荷は前年並み、価格は平年を下回る見込み。
	73.09	105	68	59	・入荷見込量:4,400t(100) ・主産地:茨城(53)、長野(12)、和歌山(10)		生育が順調で出回りも多く、前年並みの入荷を見込む。入荷増加に伴い小幅安も前年を並を予想。
ほうれんそう	333.43	725	430	378	・入荷見込量:2,070t(100) ・主産地:群馬(38)、埼玉(18)、千葉(15)、茨城(15)	関東の産地では、豪雨の影響により一部で播種が遅れた。11月の気温は平年並みからやや高く、降雨量も平年並みと予想されていることから(気象庁)、順調な生育が見込まれる。出荷量は前年並みの見込み。	関東は10月までの遅れから量的に回復し前年並みの入荷で、価格は平年よりも安い見込み。
	399.77	845	535	435	・入荷見込量:810t(120) ・主産地:徳島(46)、岐阜(28)、福岡(12)		平坦地ものに切り替わるが、高冷地物も多い見込み。ともに生育は順調で潤沢な出回りとなる見通しから入荷も前年を上回る見込みで価格安を予想。
レタス	166.60	193	147	114	・入荷見込量:7,670t(103) ・主産地:茨城(65)、香川(9)	関東の産地では、品質、肥大状況ともに良好であるが、肥大はやや遅れている。若干小玉傾向だが、出荷量は順調と予想される。	今年、茨城の10月分が遅れて入荷し、入荷は前年を上回り、価格は平年を下回る見込み。
	160.60	227	170	141	・入荷見込量:1,750t(111) ・主産地:兵庫(41)、茨城(32)、香川(13)		生育順調で作柄も良く、前年を上回り入荷も増加する見通し。産地も増えて前月に比べ下押しも、前年並みの価格を予想。
たまねぎ	76.15	76	75	73	・入荷見込量:12,140t(100) ・主産地:北海道(97)	生育は良好で、品質も安定している。出荷は平年をやや上回る見込み。	今年北海道は平年作である。小ぶりで箱数が伸び悩む可能性がある。入荷は前年を下回り、価格は平年よりも高い見込み。
		81	78	75	・入荷見込量:3,500t(100) ・主産地:北海道(65)、兵庫(28)		平年作で順調な出回りを見込む。品質も良好。入荷・価格共に前年並みを予想。
きゅうり	262.75	336	242	252	・入荷見込量:6,310t(101) ・主産地:埼玉(32)、群馬(17)、宮崎(15)	関東の産地では、加温タイプの出荷が9月中旬から始まっているが、曇天と一時的な低温により、花落ちや果形の乱れのため、収穫の波が生じており、出荷量が少なめの見込み。	今年平年作で入荷はやや増加、価格は平年をやや下回る見込み。
	271.16	409	264	272	・入荷見込量:1,100t(102) ・主産地:宮崎(56)、高知(17)、大阪(6)		西南暖地の出遅れが回復に向かう入荷は前年より少ない見通し。価格は入荷の増加に伴い下押しを予想。
トマト	315.83	449	420	323	・入荷見込量:4,790t(100) ・主産地:熊本(23)、千葉(19)、茨城(14)、愛知(14)	関東の産地では、作柄全体としては、概ね順調である。11月いっぱいに出荷終了するが、昨年よりやや減となる見込み。	今年高温被害などが無く入荷は前年を上回り、価格も平年よりもやや高い見込み。
	337.88	442	456	333	・入荷見込量:1,000t(99) ・主産地:熊本(38)、岐阜(10)、愛知(8)		夏秋ものが切り上がり、抑制ものの順調な出回りを見込む。価格は作型の切り替わりから上向くも、入荷は前年を上回る見通しから安値を予想。
なす	316.84	323	200	182	・入荷見込量:2,940t(100) ・主産地:高知(51)、福岡(12)、栃木(9)、群馬(7)	関東の産地では、天候不良の影響で遅れていた生育は平年並みに回復した。しかし、気温の低下に伴い出荷量は徐々に減少傾向にある。ハウス栽培では順調な生育・出荷となっている。	今年寒さが早く来た分関東産の切り上がりが早いと予想され、入荷は前年を下回り、価格は平年より安い見込み。
	277.06	261	214	200	・入荷見込量:500t(101) ・主産地:高知(30)、岡山(15)、熊本(15)		夏秋ものが多く、冬春・施設ものについては生育順調で出回りは前年を上回る見込み。価格は夏秋ものが減少傾向となる。後半上向くも前年には及ばず安値を予想。
ピーマン	263.58	245	344	272	・入荷見込量:1,890t(98) ・主産地:茨城(65)、宮城(11)、高知(10)	関東の産地では、品質・肥大ともに良好であり、平年並みの出荷が見込まれる。病害虫の発生は少なく、着果状況も順調。	今年宮崎の作付けの減少が大きく量的に届かず入荷は前年を下回り価格は平年を上回る見込み。
	282.16	272	360	298	・入荷見込量:320t(95) ・主産地:宮崎(51)、高知(23)、鹿児島(15)		天候良く順調な出回りも面積減少から入荷は前年を下回る見通し。夏秋ものが切り上がり始め前半価格が上向くも、抑制ものが順調に出回り、後半へ下押しを予想。
だいこん	64.33	127	67	54	・入荷見込量:12,800t(94) ・主産地:千葉(70)、神奈川(11)	神奈川法人:関東の産地では生育は、概ね順調。11月上旬から出荷が始まり、出荷量は前年並の見込み。	関東産が遅れ気味で、暖冬となれば生育が進んで18年度並の安値も想定される。入荷は前年を下回る見込み。
	76.48	129	75	71	・入荷見込量:4,700t(100) ・主産地:千葉(18)、和歌山(13)、青森(10)		生育は順調で千葉県産がやや少なめ和歌山・石川産が前年を上回る入荷が見込まれ、価格は下押しを予想。
にんじん	129.56	112	112	99	・入荷見込量:7,440t(95) ・主産地:千葉(50)、北海道(32)	関東の産地では、関東の産地では生育・作柄は、平年並みの見込み。	北海道ものが早く切り上がり、近在産地の作付けの減少と遅れから入荷は前年を下回り価格は平年を上回る見込み。
	129.59	112	105	99	・入荷見込量:2,200t(90) ・主産地:北海道(62)、長崎(12)		長崎・千葉産生育順調で作柄も良く入荷増加見込むも、北海道産が切り上がり早まる見通し。価格は後半より上向くが前年を下回る予想。

種類	10月の価格動向				11月の見通し	卸の見通し (上段：関東、東京青果類、下段：近畿：大果大阪青果類)	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定期間	上旬	中旬			下旬
いも	200.88	285	257	232	・入荷見込量：1,320t(105) ・主産地：埼玉(45)、千葉(23)、栃木(8)	関東の産地では、8月下旬の雨等により生育が若干遅れていたが、9月下旬以降は天候も安定しており、肥大についても良好である。収量は前年を上回る見込み。	今年は入荷量が昨年を上回り価格は平年を下回る見込み。生育順調で作柄も概ね良好から前年を上回る見込み。価格は下押しを予想。
	207.20	302	273	276			
ばれいしょ	88.17	88	86	84	・入荷見込量：10,520t(100) ・主産地：北海道(98)	生育は良好。収穫は早まり、出荷は平年並みの見込み。	北海道は平年作とされるが小ぶりで出荷量はやや下方修正の見込み。入荷は前年を下回り、価格は平年よりも高い見込み。
		84	83	82			

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
 2) 旬別平均販売価額の青は保証基準額を上回るもの。赤色は下回るもの(消費税は除く)。

1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
 2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
 3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

1) 「卸の見通し」の内容は、東京青果株式会社「野菜展望」、大果大阪青果株式会社「虹」をもとに機構が編集したものである。
 2) その後の気象条件の変化等により変動があり得る。

2 野菜の需要動向

家計調査でみると、9月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4934g、対前年比103%となっているが、購入金額については、1763円、対前年比98%となっている。
 また、小売物価統計によると、9月のはくさい、キャベツの小売価格は、いずれも過去5年平均に比べて2割程度下回っている。

1 生鮮野菜の購入量及び金額

年	平成20年		平成19年		過去5年平均	
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)
1月	4,341	1,479	4,148	1,487	3,981	1,524
2月	4,471	1,582	4,279	1,447	4,218	1,566
3月	4,763	1,735	4,674	1,629	4,527	1,692
4月	4,896	1,786	4,904	1,794	4,667	1,775
5月	5,020	1,876	5,215	1,891	5,068	1,876
6月	5,026	1,878	5,081	1,827	4,955	1,860
7月	4,446	1,673	4,488	1,700	4,391	1,681
8月	4,392	1,619	4,392	1,766	4,257	1,648
9月	4,934	1,763	4,784	1,807	4,678	1,730
10月			5,151	1,870	5,110	1,814
11月			4,969	1,632	4,832	1,576
12月			5,194	1,869	5,041	1,779

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

月	はくさい		キャベツ	
	平成20年	過去5年平均	平成20年	過去5年平均
1月	120	143	148	216
2月	123	151	163	203
3月	212	190	213	192
4月	256	242	208	237
5月	211	205	164	188
6月	199	198	154	157
7月	216	194	151	159
8月	206	229	134	160
9月	204	243	125	160
10月	203	196	149	167
11月		154		165
12月		116		158

注1：過去5カ年は平成15～19年
 注2：10月の値は、10月中旬の速報値

資料：総務省統計局「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

中国からの野菜の輸入量は、平成17年には165万トンであったものが、19年には、87%の141万トンとなっており、さらに本年1～9月では対前年同期比80%となっている。
 9月については、植物防疫検査統計によると、たまねぎについては前年同期比90%、にんじん同128%、ねぎ同107%となっている。

野菜等の輸入数量の推移について

区分	平成17年	平成18年	平成19年	平成19年		平成20年	
				前年比	1～9月	1～9月	前年同期比
生鮮野菜	1,114,274	956,167	719,468	75	556,547	460,669	83
加工野菜	1,772,280	1,805,327	1,765,162	98	1,331,040	1,249,963	94
野菜輸入量合計	2,911,337	2,787,104	2,506,416	90	1,887,588	1,710,632	91
中国産野菜合計	1,653,854	1,621,939	1,413,584	87	1,061,640	854,419	80
中国産シェア	57	58	56		56	50	

資料：財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

品目	輸入先	(単位：トン、%)		
		(A)2007.9	(B)2008.9	(B)/(A)
たまねぎ	合計	17,053	14,887	87.3
	中国	16,336	14,729	90.2
	米国	707	128	18.1
にんじん	合計	2,888	3,714	128.6
	中国	2,854	3,691	129.3
	NZ	-	626	-
ねぎ	合計	2,946	3,172	107.7
	中国	2,944	3,171	107.7

資料：農林水産省「植物防疫検査統計」(2008.9は10月第5週現在で速報値である。)

4 トピック

平成20年加工・業務用野菜需要対応産地育成事業等について

加工業務用向けの国内野菜産地の育成に向けて、低コスト・合理的流通システムの改善、契約取引に向けた産地と実需者の連携の強化の取り組みを支援します。

独立行政法人農畜産業振興機構では国産野菜を志向する実需者ニーズに対応した加工・業務用向けの国産野菜の安定供給を図る平成20年度に右欄の助成事業を緊急に実施することとなり、10月22日(水)か11月14日(金)の間に事業実施主体の募集を行います。

また、省エネ技術・施肥低減体系緊急導入促進事業については平成20年9月30日から募集を開始しております。10月31日現在で予算額に余裕がありますので、募集を継続しています。

詳細は以下のホームページをご確認ください。
<http://alic.lin.go.jp/koubo/hojyo-koubo.htm>

20年度緊急対策

alic 加工・業務用野菜需要対応産地育成事業の実施について
(公募期間：平成20年10月22日～11月14日)

真の安全・安心への関心の高まりを背景として実需者等が国産野菜を求める動きが顕在化しています。このような状況の変化を踏まえ、実需者ニーズに対応した加工・業務用向けの国産野菜の安定供給を図るため、20年度の緊急対策として以下の事業を実施します。

1. 事業の概要

(1) 低コスト・合理的流通システム支援事業
 ①事業実施主体当たりの上限額10,000千円：定額補助
 野菜の産地産地等、今後の加工・業務用野菜の供給地として期待されているところですが、近年の原油・資材高騰によりその輸送コストが増大し競争条件が厳化しているところ。このため、主要な産地において、今後増加することが見込まれる加工・業務用需要にも対応した配送拠点の市販配送経路全体の見直しを行い、安全性を確保しつつ低コスト・合理的出荷を実現し得る流通システム改革事業を支援する取組を支援します。

(2) 契約取引促進強化事業
 ①事業実施主体当たりの上限額1,000千円：定額補助
 加工・業務用需要に対応した契約取引拡大を志向する産地が、消費地において自ら実需者や流通関係者との交渉を担う取組や地元で実需者を募りて先着金を確保する取組を支援し、実需者ニーズに対応した国産野菜を安定供給するための産地と実需者との連携強化を促進します。

2. 事業実施主体
 農業協同組合連合会、農業協同組合、農業生産法人、特定農業団体、農業者の組織する団体とし、公募期間終了後、審査委員会を開催し選定します。

☆詳細については、(独)農畜産業振興機構ホームページ
<http://alic.lin.go.jp/koubo/hojyo-koubo.htm> をご覧ください。

お問合せ先
 (独)農畜産業振興機構 野菜需給部 契約取引推進課 (河津、津村)
 電話：03-3583-9817又は9816

20年度緊急対策

alic 省エネ技術・施肥低減体系緊急導入促進事業の実施について
(申請受付：本年度随時。ただし、予定した予算額に達し次第締切ります。)

燃油・肥料の高騰による影響を受け経営を圧迫されている野菜農家を支援することを目的として、野菜の周年安定供給を確保し、施設栽培の省エネルギー化の推進及び野菜産地における効率的施肥体系への転換の推進を図るため、20年度の緊急対策として以下の事業を実施します。

1. 事業の概要

(1) 省エネ技術緊急導入促進事業
 ①事業実施主体当たりの上限額10,000千円：補助率1/2以内
 これまで省エネルギーに取り組んできた農家(平成16年度と19年度を比較して燃油消費量を2割以上低減)が、今後更に、省エネルギー効果のある①長期風張フィルム、②中空二重構造被覆フィルム、③断熱・透光性被覆フィルム、④吸水・透湿性被覆フィルム等を購入する場合に補助します。

(2) 施肥低減体系緊急導入促進事業
 ①事業実施主体当たり上限額2,000千円：定額補助
 野菜産地が土壌診断に基づく効率的な施肥体系への転換に先進的に取り組む場合に、簡易土壌診断装置の導入、分析委託費等について補助します。

2. 事業実施主体
 農業協同組合連合会、農業協同組合、農業生産法人、特定農業団体、農業者の組織する団体等。

☆詳細については、(独)農畜産業振興機構ホームページ
<http://alic.lin.go.jp/koubo/hojyo-koubo.htm> をご覧ください。

お問合せ先
 (独)農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課(幸田、矢野、伊澤)
 電話：03-3583-9483又は9482